



夏になると、花火大会やBBQなど屋外での楽しいアクティビティが増えますが、悩ましいのは虫刺されです。夏は虫が活発になる季節です。気がついたら手や足がたくさん蚊に刺されていた、という方も多いのではないのでしょうか。実は蚊などの虫に刺された時に起こるかゆみもアレルギー反応なのです。そこで今回は虫刺されの原因となる虫の種類や刺された時の症状、刺されないための対策についてご紹介します。

虫刺されのメカニズム



虫刺されによる症状は大きく『痛み』と『かゆみ』の2つに分けることができます。『痛み』は、虫が刺した時の「チクツ」とする針の刺激による痛みと、皮膚に注入された物質の作用により炎症が起こるためです。一方、『かゆみ』は、虫の毒素や唾液が皮膚に注入されることによって起こります。その他にも虫刺されの症状には腫れ、赤み、水ぶくれなどがあります。虫刺されによるアレルギーは、刺された直後から症状が出る「即時型反応」と、時間が経ってから症状が出る「遅延型反応」があります。即時型反応によるかゆみ、発赤、腫れは数時間程度で治まりますが、遅延型反応による腫れなどの症状は、軽快するまで数日から1週間ほどかかります。

虫の種類や刺された時の症状と対策



【蚊】

《症状》患部は赤くふくれあがり、直後からかゆみを感じます。乳幼児の場合は掻くことにより傷口から細菌が入り、水ぶくれができて他の部位に広がる「とびひ」になることもあるので注意が必要です。

《対策》蚊は気温の高い日中は影を潜め、比較的涼しい朝や夕方に活動します。汗の匂いや体温を察知して近づくといわれています。こまめに汗をふき、制汗スプレーやデオドラントシートで体温を下げることも効果的でしょう。



【蜂】

《症状》すぐに激しい痛みを感じ、赤く腫れます。1日もあれば落ち着きますが、注意が必要なのは強いアレルギー反応です。2回目以降、蜂に刺された時は、多くが30分以内に全身にかゆみや蕁麻疹、吐き気、むくみなどが現れ、酷い場合にはアナフィラキシーショックを起こして意識がなくなったり、呼吸困難になることもあります。

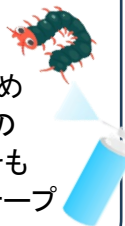
《対策》香りの強い香水、ヘアスプレー、化粧品は避け、黒い衣類は着用しない方が良いでしょう。



【ムカデ】

《症状》直後から強い痛みや腫れが現れます。痛みは激しいものの重篤状態となることは稀なケースが多いようです。頭痛、発熱、めまい、しびれ、かゆみなどの症状もみられます。

《対策》寝ている時に刺されないようにするためには、布団ではなくベッドを使用したり、ベッドの脚に殺虫剤を撒いておくのが良いでしょう。そもそも室内への侵入を防ぐため隙間がある箇所はテープで塞いだり、ムカデが好む湿気が多い環境にならないよう除湿剤などを利用しましょう。



【クラゲ】

《症状》虫ではありませんが、夏の海ではクラゲに刺されることもあります。クラゲは刺胞と呼ばれる毒針を持っており、刺胞に触れるとやけどのようなヒリヒリとした痛みやチクチクした痛みが起こります。皮膚の痛みだけではなく吐き気や嘔吐、みぞおちの痛み、頭痛、筋肉の痛みやけいれんなどもあります。

《対策》防護ネットが張ってある設備の整った海水浴場を利用したり、できるだけ露出の少ない水着を着用しましょう。クラゲ除けクリームを全身に塗って予防することもできます。



虫刺されは私たちの生活において大変身近なものです。人に被害を与える虫の種類や生態、生息地を知り、どのような皮膚症状を引き起こすか把握しておくことで役に立つでしょう。



さまざまな種類の虫刺されを紹介してきましたが、基本的には、かゆみ、赤み、腫れなどがあっても数日で治まることがほとんどです。

そのため掻きむしったり、いじったりせず様子を見るようにしましょう。

数日経っても症状が改善しない、あるいは悪化するような場合は、皮膚科を受診するか、かかりつけ医師に相談しましょう。



全国の医療機関の処方箋を受付いたします
お気軽にご相談ください

きりん薬局 原田店

熊本県球磨郡多良木町多良木2899

TEL 0966-42-6900

FAX 0966-42-6910

